

3 市民アンケート等の結果に見る市民意向

令和6（2024）年度に実施した第3次総合計画に関する市民アンケート等の結果から、主な意見等を整理します。

(1) アンケート

施策全般に対する市民意向を把握するため、年齢や地域のバランスを考慮した「市民アンケート」と、市民アンケートの対象となっていない中高生に対して「中学生・高校生アンケート」を行いました。

また、回答数が少ないと見込まれる若い世代や市外在住者の視点を取り入れるため、イベント開催時に「イベントアンケート」を行いました。

さらに、市民・行政に並ぶまちづくりの主体である事業者の視点を取り入れるため、「事業者アンケート」を行いました。

① 市民アンケート

■ 対象者

島田市に居住する男女 3,000 人（18 歳以上を対象に住民基本台帳から無作為抽出）

■ 回答数（回答率）

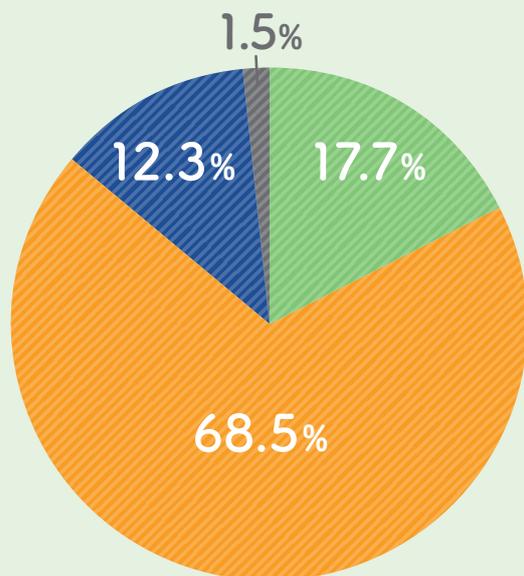
1,319 人（43.9%）

■ 設問項目「島田市の住みごちについて」の主な分析結果

住民の 86% が「住みやすい」もしくは「どちらかといえば住みやすい」と回答しました。

住みやすさの理由は「生まれ故郷であること」や「自然の豊かさ」が挙げられ、住みにくさの理由は「まちに活気がないこと」や「日常生活を送るうえで不便であること」が挙げられました。

島田市の住みごちはいかがですか？



（有効回答数：1306）



- たいへん住みやすい
- どちらかといえば住みやすい
- どちらかといえば住みにくい
- たいへん住みにくい



③ イベントアンケート

■ 対象者

市内イベントへの来訪者（ブースを設けてアンケート用紙を配布）

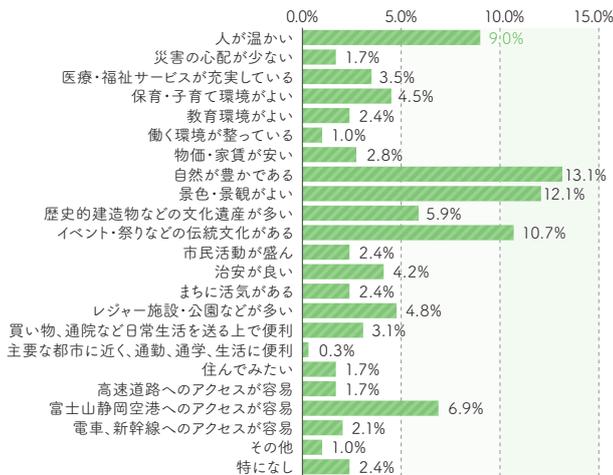
■ 回答数

570人（市内からの来訪者 378人／市外からの来訪者 191人／無回答1人）

■ 設問項目「島田市に対する魅力・イメージについて」(*)の主な分析結果

「イベント・祭りなど伝統文化がある」の回答割合が最も多かった一方、年代別で回答に大きな差がありました。40代以下では、「自然が豊かである」「景色・景観が良い」という回答が「イベント・祭りなど伝統文化がある」を上回りました。

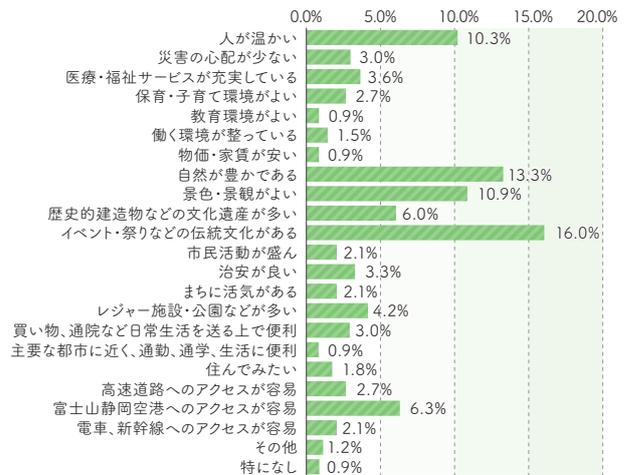
10代～40代



(有効回答数:84)

※市外からの来訪者に向けた設問項目

50代～



(有効回答数:98)

④ 事業者アンケート

■ 対象者

島田商工会議所、島田市商工会に所属する1,000事業所

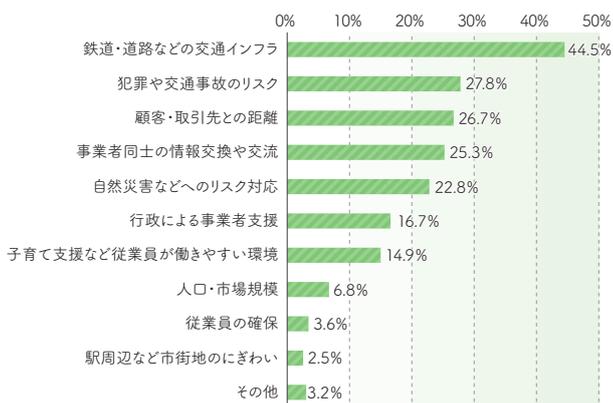
■ 回答数(回答率)

361事業所(36.1%)

■ 設問項目「島田市の強み・弱みについて」の主な分析結果

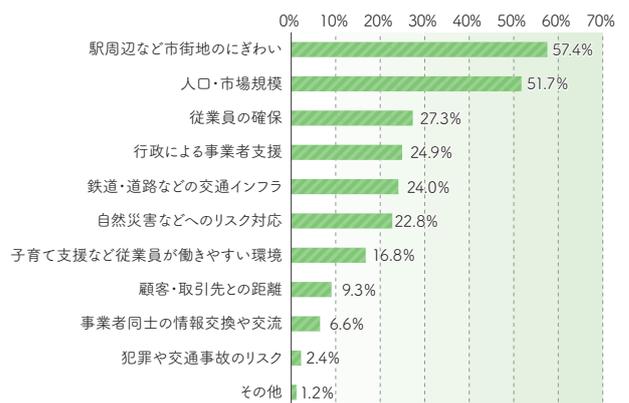
全体的な強みとしては、「交通インフラ」、弱みとしては、「市街地のにぎわい」「人口・市場規模」が多く挙げられました。

強み



(有効回答数:281)

弱み



(有効回答数:333)



③若者世代ワークショップ

■対象者

静岡県立大学及び静岡福祉大学の学生

■参加者数

13人

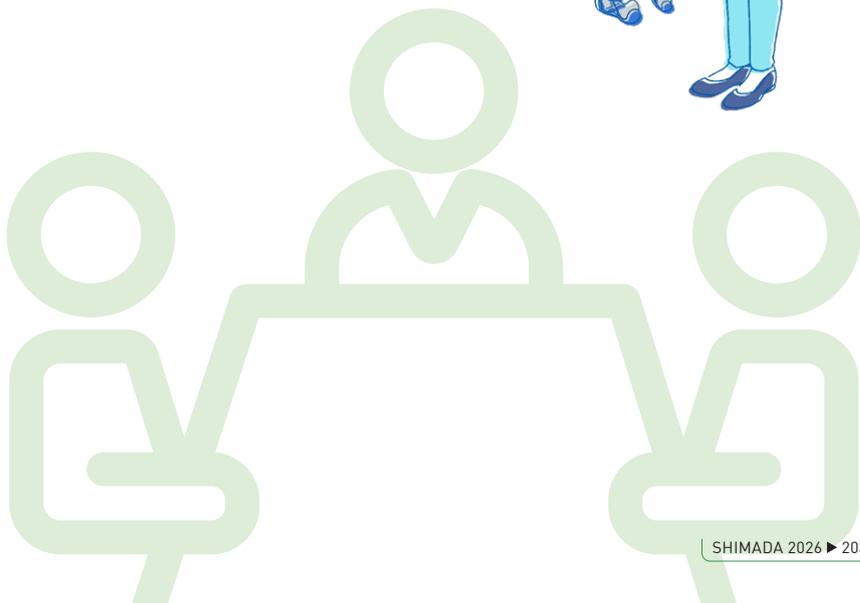
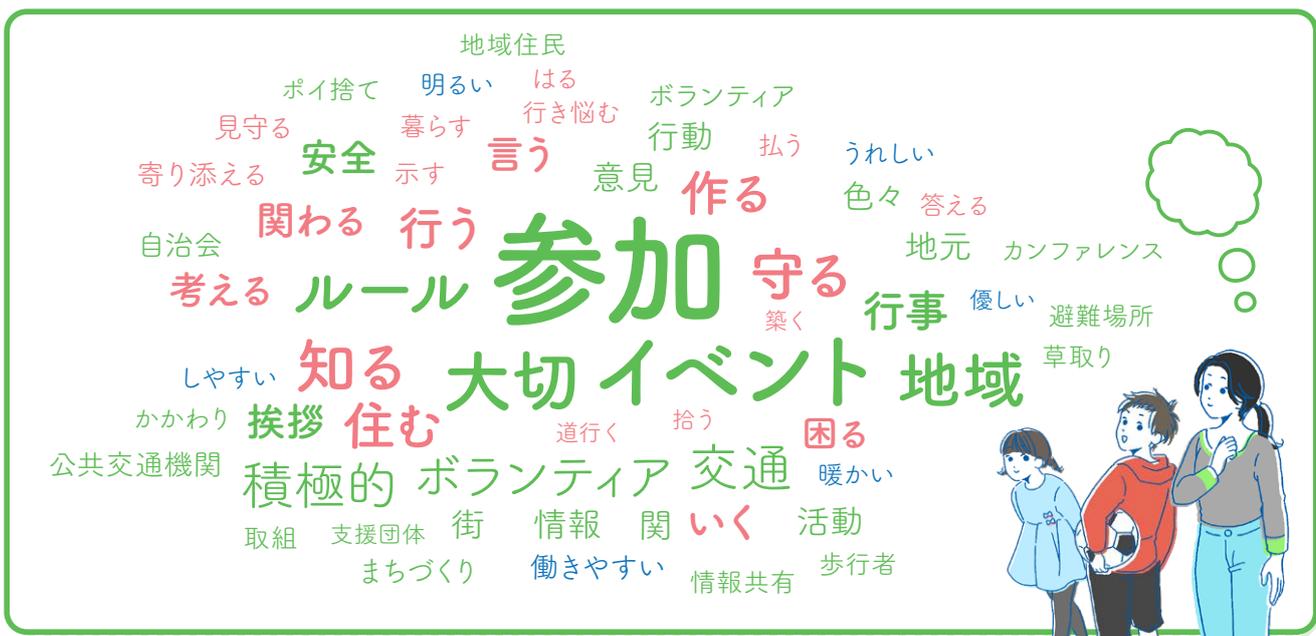
■内容

- (1) 今住んでいる町はどんな町？
- (2) 東京（都会）か今住んでいるまち、今すぐに就職先を決めなければならなくなったらどちらを選ぶ？
- (3) 10年後に今住んでいるまちで子育てすることになった。今日中にオーダーしておけばあなたが子育てするときその願いは叶えられる。思いつく限りオーダーしてみよう。
- (4) あなたの夢や思い描いている未来予想図を叶えることができる理想のまちに欠かせない条件は？
- (5) あなたにとっての理想のまちの条件を1つでも叶えるために自分でできることは？

■主な意見

- ・都会に就職するより今住んでいるまちに残りたい。
- ・理想のまちに欲しい要素として、住環境のよさや交通インフラを求めたい。
- ・理想のまちをつくるために、今住んでいるまちのことを知り、地域イベントに参加するなど、人・地域とのつながりを増やしていきたい。

■「あなたにとっての理想のまちの条件を1つでも叶えるために自分でできることは？」における頻出ワード



4 第2次島田市総合計画の振り返りと評価

(1) 市民意識調査の結果による市民意向の経年変化

令和7(2025)年度島田市総合計画市民意識調査により、市民意向の経年変化を示します。
前年度のまちづくりの取組について、市民の意見を次年度のアンケートで聴取しています。
例：令和7(2025)年度調査⇒令和6(2024)年度におけるまちづくりの取組への評価



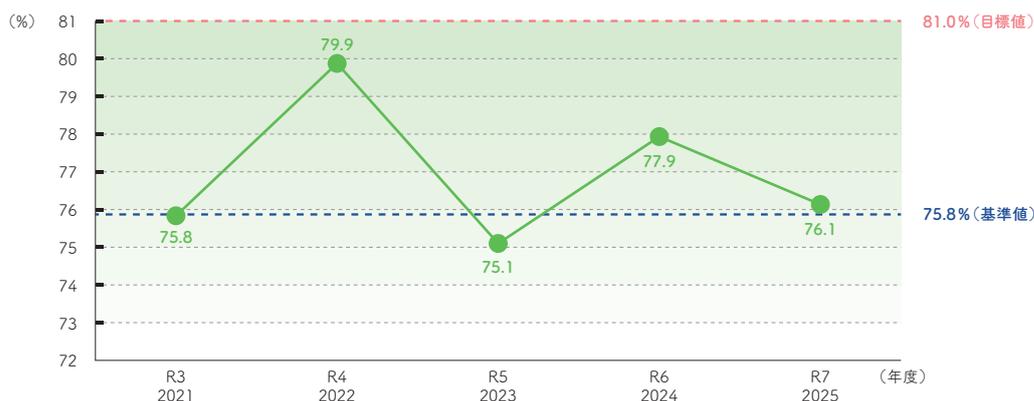
[市民意識調査概要]

■ 調査地域 ■ 調査対象

島田市全域 島田市に居住する男女 2,500 人(18 歳以上を対象に住民基本台帳より無作為抽出)

① 島田市のことが好きな市民の割合(第2次総合計画後期計画の全体指標)の経年変化

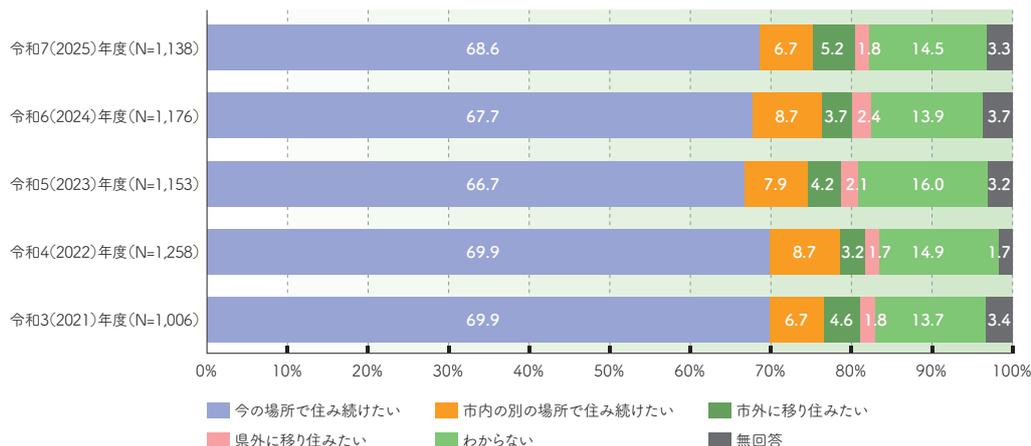
島田市のことが好きな市民の割合については、令和3(2021)年度以降、7割を超える水準を維持していません。令和5(2023)年度に基準値を下回りましたが、直近2年は基準値を超える割合となっています。

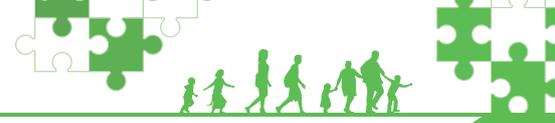


② 居住意向

島田市に住み続けたい意向については、「今の場所で住み続けたい」と「市内の別の場所で住み続けたい」の回答を合わせた[住み続けたい]の割合が75.3%となっています。

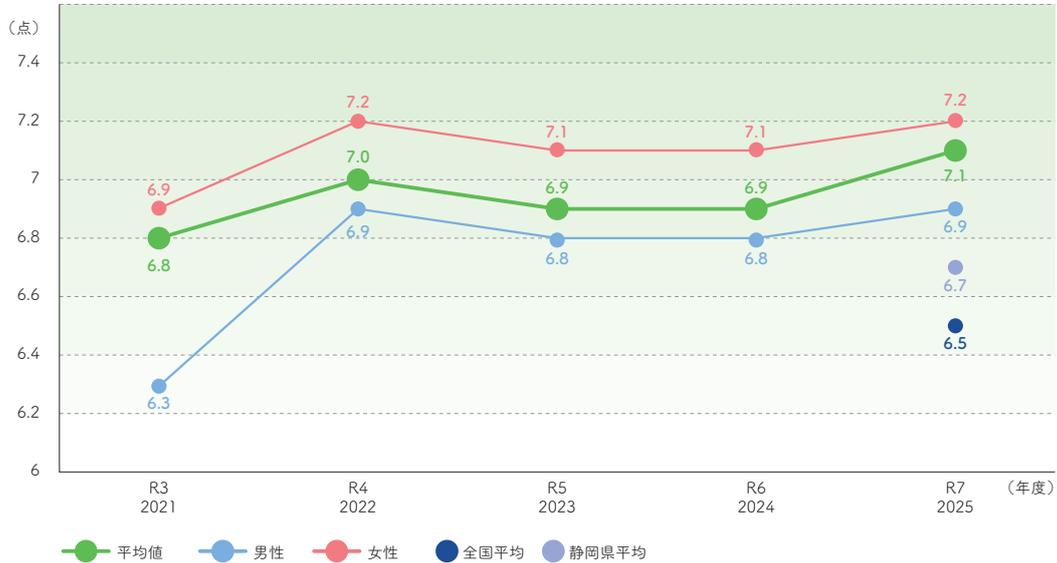
令和7(2025)年度を含む過去5年間の調査結果を見ると、概ね75%の市民の方が[住み続けたい]と回答しています。





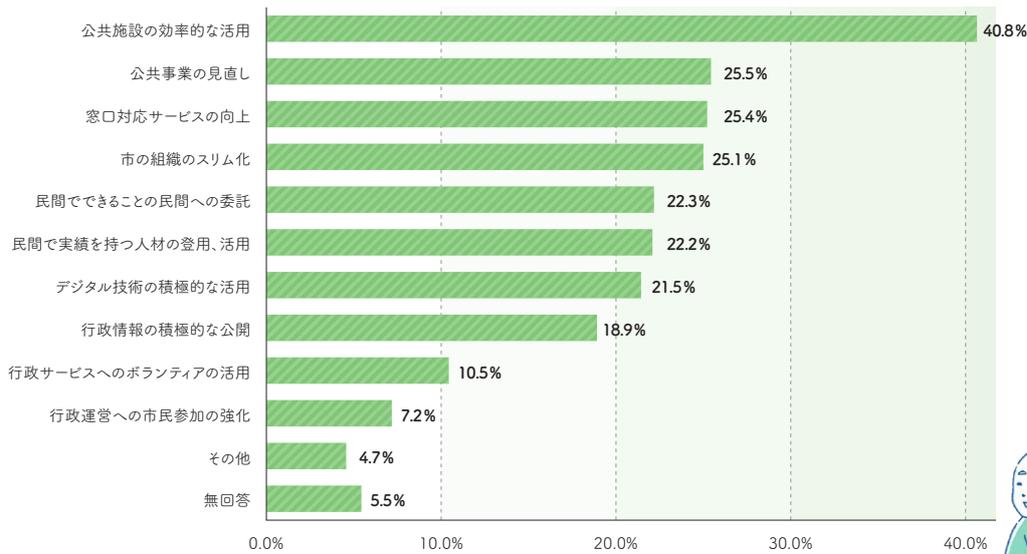
③ 主観的幸福感

「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とする、幸福感の平均点は7.1点となっています。性別にみると、男性の平均点が6.9点、女性が7.2点と、女性の方が男性よりも高くなっています。また、全国平均を0.6点、静岡県平均を0.4点上回っています。令和7(2025)年度を含む過去5年間の調査結果を見ると、7.0点に近い水準で推移しています。



④ 今後の取組

島田市の行政運営について今後望むことは、「公共施設の効率的な活用」が最も高くなっており、次いで「公共事業の見直し」、「窓口対応サービスの向上」と続いています。

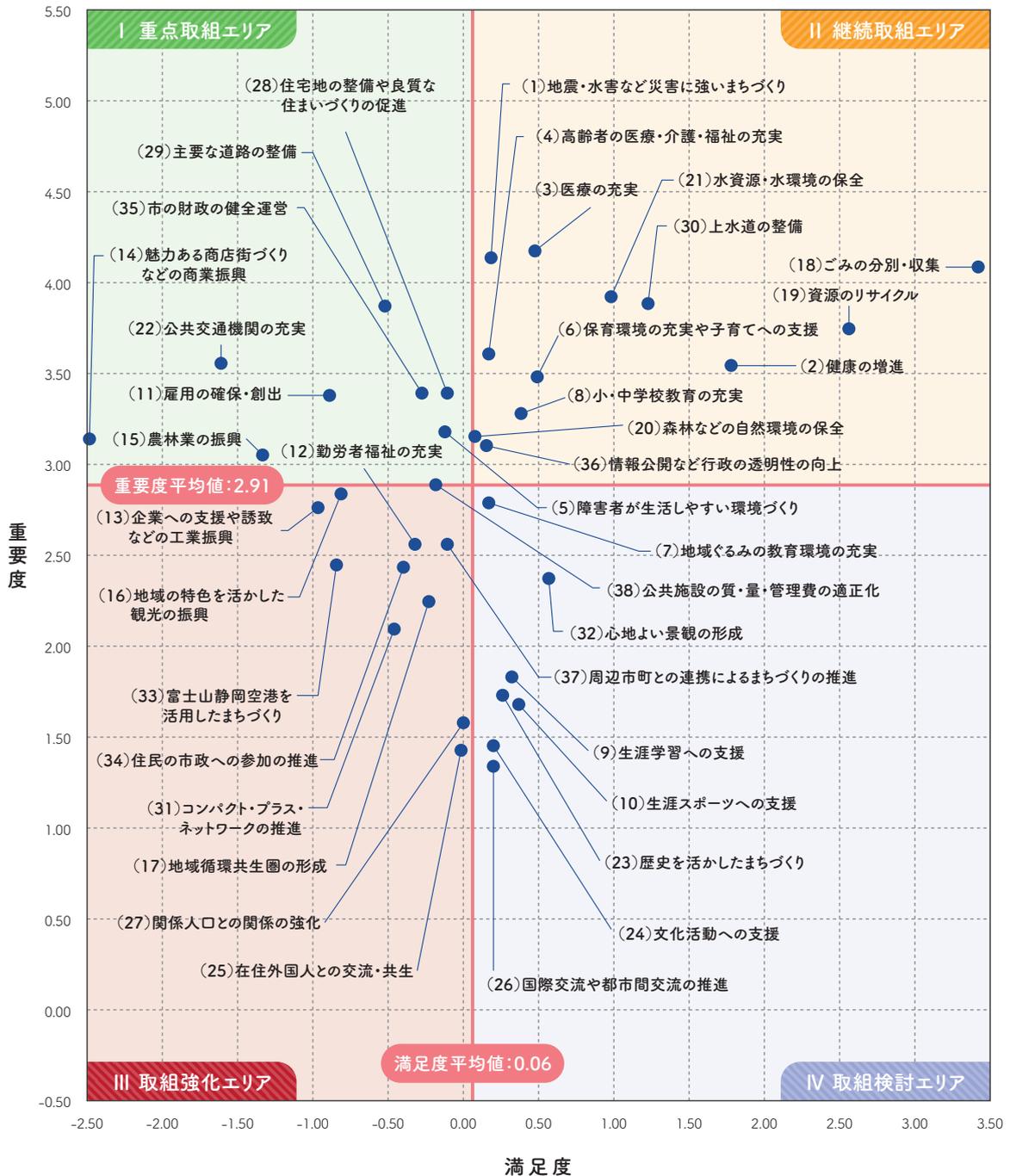


(2) 施策の評価

① 主な施策の評価

令和7(2025)年度島田市総合計画市民意識調査における本市の取組に対する現在の評価(満足度)と今後への期待(重要度)を点数化し、「Ⅰ.重点取組エリア」、「Ⅱ.継続取組エリア」、「Ⅲ.取組強化エリア」、「Ⅳ.取組検討エリア」の4つの領域に分類しました。

相対的に満足度が低く重要度が高い「Ⅰ.重点取組エリア」に属する施策について、優先的に取り組む必要があります。

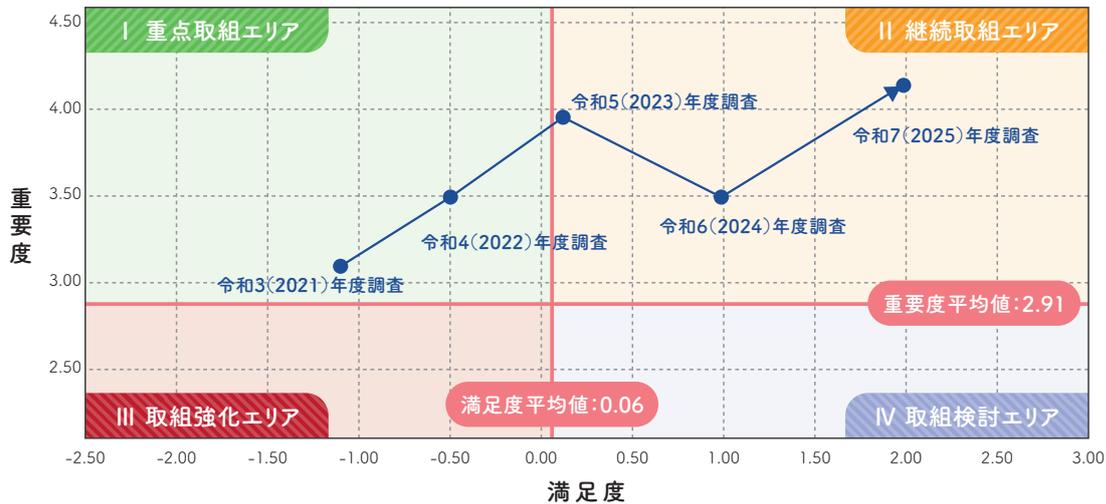




②主な施策の評価の経年変化

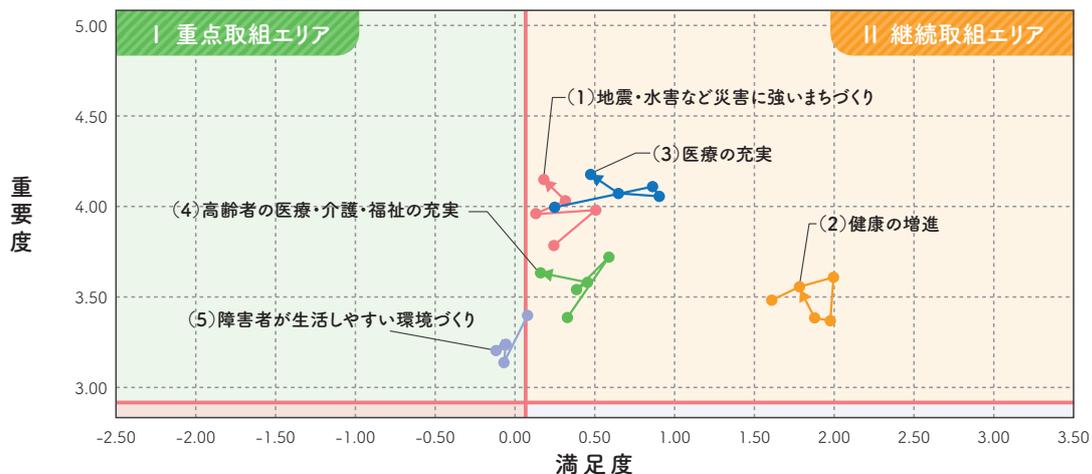
主な施策の第2次総合計画期間における満足度、重要度の経年変化を、政策分野ごとにまとめ、市民意識調査結果から第2次総合計画の評価を行いました。

グラフの見方



- 満足度、重要度の推移については、調査年度ごと●で示してあります。●の数が5個未満の項目については、令和4(2022)年度以降新しく調査項目として追加したものです。
- グラフに十字で入っている赤い線は、令和7(2025)年度調査における満足度の平均値(0.06)と重要度の平均値(2.91)です。
- 満足度の平均値、重要度の平均値との比較により、4つのエリアに分類しています。

防災・福祉・健康について

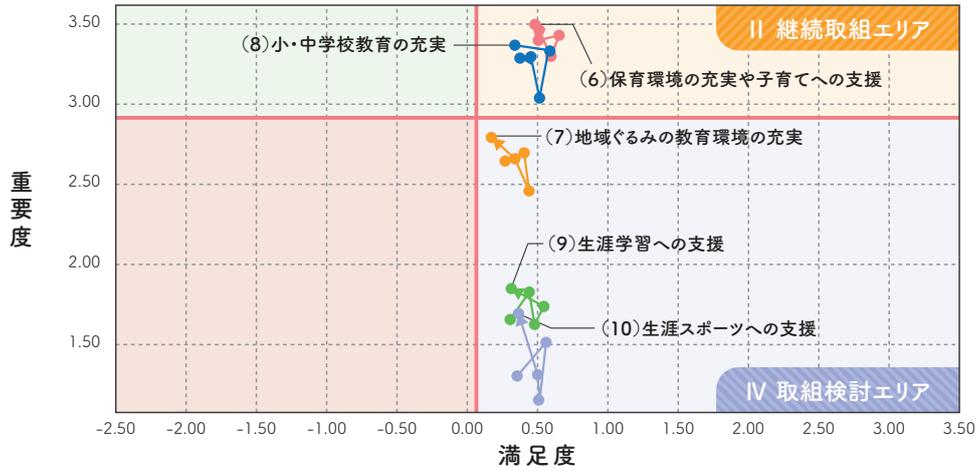


経年変化をみると、5つの項目のうち4つの項目において、満足度が平均値以上となっている一方で、全ての取組において満足度が低下傾向にあります。

また、全取組が、重点取組エリアもしくは継続取組エリアに位置しており、市民からの期待が高いことが伺えます。

「障害者が生活しやすい環境づくり」について、「第5次島田市障害者計画」に基づき、多角的に支援することで満足度を高める必要があります。

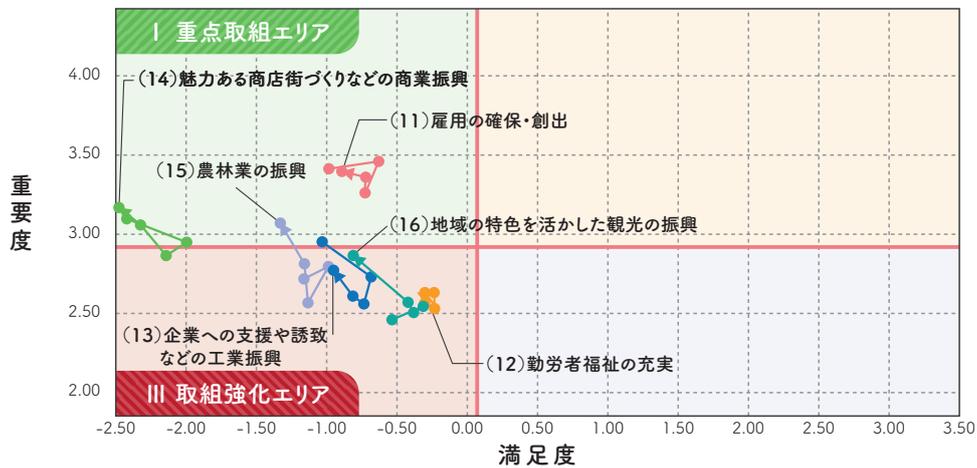
子育て・教育について



全ての項目において、満足度が平均値以上となっています。特に「こども家庭センターの設置」や「島田市版ネウボラ」などによる切れ目のない支援などにより、「保育環境の充実や子育てへの支援」の満足度が高くなっています。引き続き、「島田市こども計画」に基づき、社会情勢の変化に伴った保育需要等に対応していくことで、市民の満足度の向上を目指す必要があります。

一方、「生涯学習への支援」、「生涯スポーツへの支援」の重要度が低くなっています。これらの分野では学習センターでの講座の充実や各種スポーツ教室の開催など、市民の関心が高まる施策の展開が必要です。

経済・産業について



全ての項目において、満足度が平均値以下となっています。特に重要度が高い「雇用の確保・創出」については、若年層の地元就職促進やU1Jターン²推進につながる具体的な支援策を、引き続き展開していくことが求められます。

「魅力ある商店街づくりなどの商業振興」については、郊外大型店の進出やインターネット通販の拡大等が影響し、商店街の店舗が減少していることが満足度低下の要因となっています。事業者が参入しやすい環境を整備し、中心市街地に点在する空き家や空き店舗を効果的に活用していく必要があります。

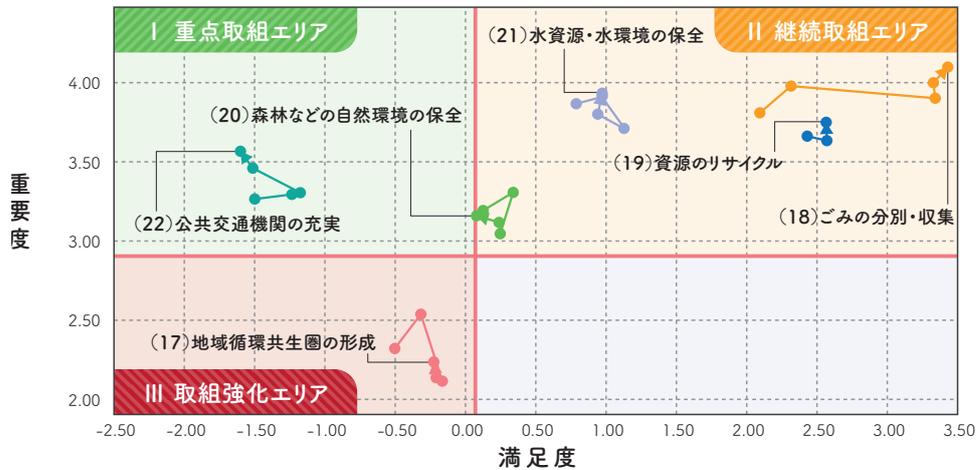
また、「地域の特色を活かした観光の振興」については、市民と観光振興に関するビジョンを共有することが重要です。市民が観光による地域のにぎわい創出を実感できるよう、「島田市観光戦略プラン」に基づき、地域と連携しながら各種施策を展開していく必要があります。

用語解説

- 【島田市版ネウボラ】フィンランドの母子保健システム「ネウボラ」のエッセンスを取り入れた子育て世帯支援体制のこと。母子健康手帳を交付した家庭に担当保健師を配置し、妊娠前から継続して同じ保健師が訪問や相談等に対応する。
- 【U1Jターン】主には、首都圏など都市部の居住者が地方に移住する動きの総称のこと(Uターン、Iターン、Jターン)。



環境・自然・生活について

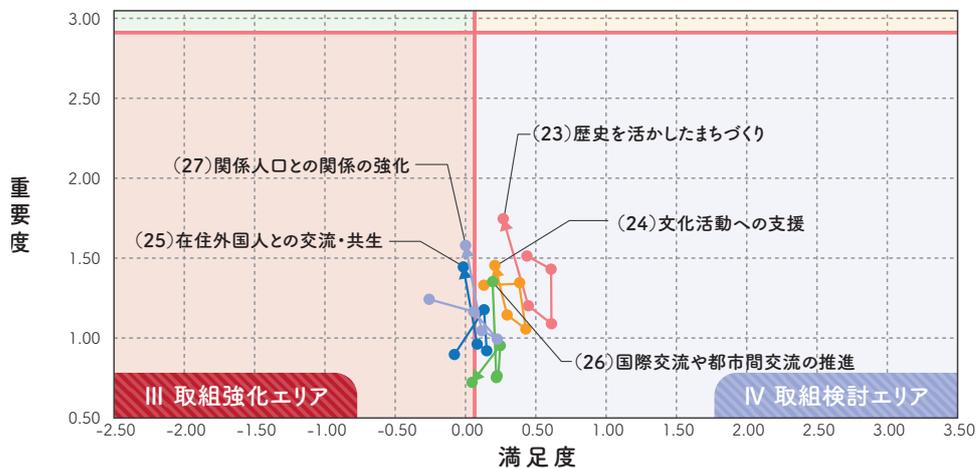


「ごみの分別・収集」は、調査開始以降、全ての調査項目の中で最も高い満足度を維持しており、満足度は年々上昇しています。また、重要度も高く、市民から高く評価されるとともに、暮らしにとって重要な施策と認識されていることが分かります。

一方で、ごみ処理にかかる経費が年々増加していることや、ゼロカーボンシティを目指すうえでも、ごみの発生抑制や資源のリサイクルの必要性を市民に理解してもらうなど、利便性と環境負荷の低減のバランスを考慮しながら、施策を展開していく必要があります。

また、「公共交通機関の充実」は、重要度は高く、満足度が低い重点取組エリアに位置しています。人口減少や高齢化が進む中、地域の実情に応じた施策を展開させていく必要があります。

歴史・文化・地域について



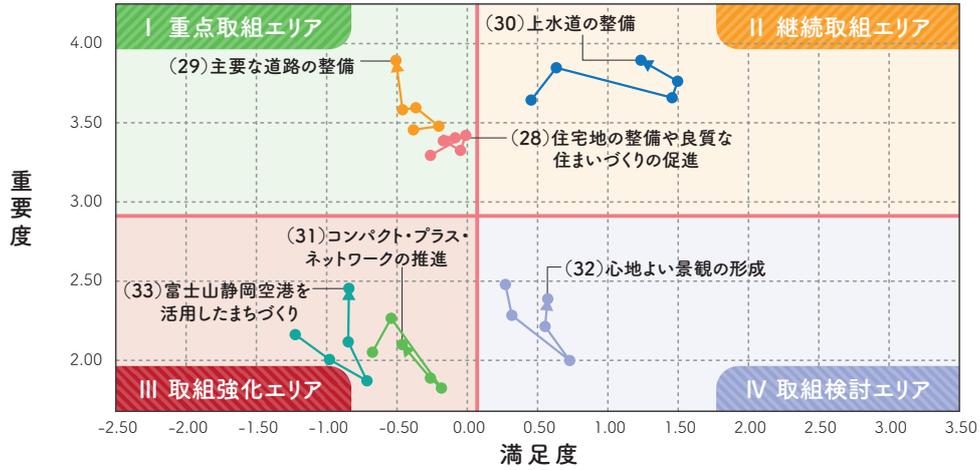
全ての項目において、重要度の平均値を下回り、「取組強化エリア」及び「取組検討エリア」に位置していますが、近年では上昇傾向が見られます。本市が誇る国指定遺跡である「諏訪原城跡」や「島田宿大井川川越遺跡」など、地域資源を保存するだけでなく、その活用を図る施策を展開していくことや、「島田市緑茶化計画」をはじめとしたシティプロモーション²を積極的に推進し、本市の魅力を市内外に発信していくこと等が求められます。

特に近年重要度が上昇傾向にある取組については、施策を更に充実させることで、市民の満足度向上を目指していく必要があります。

用語解説

- 【島田市緑茶化計画】市民が自信と誇りをもって世界に自慢できる「緑茶愛」に注目し、街人も元気になる仕組みを構築しようというシティプロモーションの取組のこと。
- 【シティプロモーション】地域の魅力を高めまたは発掘し、地域内外に効果的に発信することで、地域へ人や資源、情報などを呼び込み地域経済を活性化させ、地域の愛着や誇りを醸成させるとともに地域の持続的な発展を図る取組のこと。

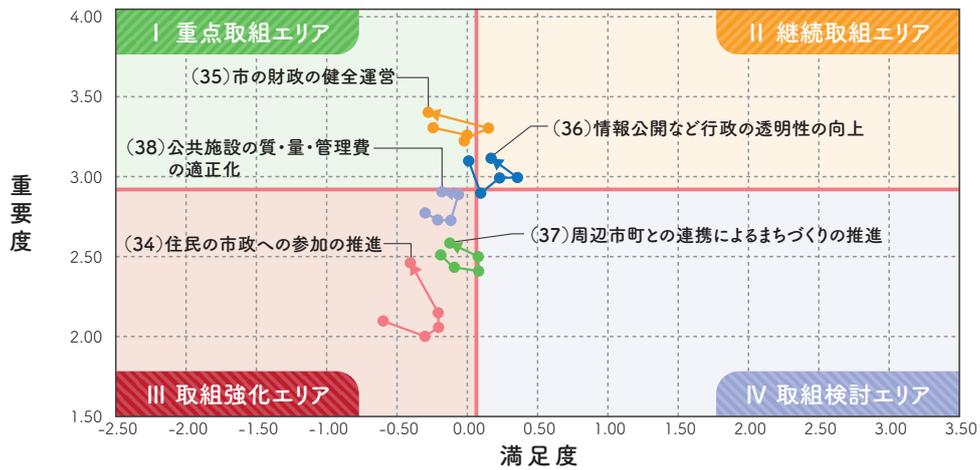
都市基盤について



全ての項目で重要度が上昇しています。「主要な道路の整備」については、引き続き主要道路4路線（色尾大柳線・島竹下線・谷口道線・谷口中河線）等の工事を計画的に進めるとともに、国や県が施工する事業の着実な推進を図るため、積極的な要望活動が求められます。これにより、地域間の活発な交流を支える道をつくり、市民の満足度向上につなげていく必要があります。

また、「コンパクト・プラス・ネットワーク」の推進は、「島田市都市計画マスタープラン」や「島田市立地適正化計画」の趣旨や重要性について、広く市民への浸透を図り、重要度を高めるとともに、効果が実感できる施策展開を図っていく必要があります。

行財政について

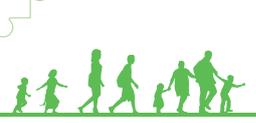


全ての項目において、満足度、重要度が平均値近くにあります。重要度が最も高い「市の財政の健全運営」については、財政の効率化と健全化に取り組み、安定した行政運営を継続することで、満足度向上を目指す必要があります。

また、「住民の市政への参加の推進」の重要度が高くなっています。少子高齢化、人口減少などによる地域社会の変化に対応し、持続可能なまちづくりを進めるために、新たな市民協働の施策を展開し、市民の市政参加意識を高める必要があります。

用語解説

- 【コンパクト・プラス・ネットワーク】 人口減少・超高齢社会にあっても、持続可能で、誰もが安心して暮らしやすい都市生活を営むことができることを目指す都市づくりの考え方にに基づき、生活に必要なサービス施設や行政機能、居住の場を、市街地や地域拠点に集約・誘導し、その拠点間を公共交通などで結びつける都市の形（都市構造）のこと。



5 これからのまちづくりの課題認識

(1) 課題の整理・分析

時代の潮流、市の現状、市民アンケート等の結果などを踏まえて、今後のまちづくりにおいて解決していくべき課題を整理します。

整理にあたっては、外部環境(機会、脅威)を「PEST分析¹⁾」によって整理し、市の内部環境(強み、弱み)と組み合わせ、4つの領域【成長戦略】、【回避戦略】、【改善戦略】、【改革戦略】へと分類するSWOT分析²⁾を活用しています。



成長戦略 強み × 機会

(強みによって機会を更に活かす)

- 島田市総合医療センターを起点とした医療サービスの提供
- デジタル技術の活用による学校生活満足度の更なる向上
- 子育て支援施策の更なる拡充による育児しやすいまちづくり
- 「島田市緑茶化計画」の推進(ブランディング・付加価値向上)
- DX推進による生産性向上などの第2次産業の強化支援
- 豊かな景観や住みやすさを活かした移住・定住施策の促進
- 豊富な歴史・伝統・文化資源を活かしたシティプロモーション
- インバウンド需要獲得のための観光振興
- 充実した交通インフラを活かしたコンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりの推進
- 充実した広域交通網を活かした企業誘致の推進
- デジタル技術活用による誰一人取り残されない行政サービスの提供

回避戦略 強み × 脅威

(強みで脅威を回避・克服する)

- 防災意識の高まりを契機とした地域防災力³⁾の強化
- 1人1台端末を活用した教員の負担減と教育の質向上
- 各種子育て支援制度を活かした出産・育児しやすい環境づくり
- 第2次産業を起点とした外需獲得及び域外からの就労者数の流入促進
- 市の基幹作物であるお茶を活かした国内外への販路拡大による地域経済の活性化
- ごみの減量による市財政の負担軽減
- 歴史・文化に触れる機会創出による地域コミュニティ活動を担う人材の育成
- 歴史・文化資源の積極的な活用による地元愛の醸成
- 行政のDX推進による経費の削減
- 富士山静岡空港周辺及びふじのくにフロンティア推進区域⁴⁾を活用した観光交流客数の増加による地域経済の活性化

改善戦略 弱み × 機会

(機会を逃さないように弱みを改善する)

- 企業の働き方改革による子育て環境整備促進(平日の育児時間確保、育休取得促進など)
- デジタル技術を活用したスマート農林業、農林業⁵⁾のDXの取組強化
- 企業誘致による雇用創出
- 環境教育などの推進による環境意識の向上及びリサイクルの促進
- コト消費型のイベントなどの開催による地域振興
- 住民参画や市民協働の機会創出
- 空き家、空き店舗などのリノベーション⁶⁾支援
- ふるさと納税制度の積極活用による財源確保の強化

改革戦略 弱み × 脅威

(脅威を克服して最悪の事態を招かない)

- 医療・介護サービス人材の安定的な確保
- 独居老人世帯のつながり創出支援
- 世帯の経済的不安を解消するための支援策の拡充による育児支援
- 家庭・地域・学校で子どもを支えあう教育環境の整備
- 若年層向け市内就業支援の強化による人口流出防止
- 公共交通機関の利便性向上による生活環境の改善
- 人口減少に対応した公共施設のストックの適切な維持・管理
- 地域の実情に応じた防災・減災のための道路などのインフラ整備
- 地域間での広域連携による行政経営の効率化
- 公共施設運営のムダ見直しなどによる財源確保

用語解説

- 1.【PEST分析】 政治(Politics)、経済(Economy)、社会(Society)、技術(Technology)の4つの外部環境を分析し、現在もしくは将来的にどのような影響を与えるかを把握・予測するためのフレームワークのこと。
- 2.【SWOT分析】 地域の強み(Strength)、弱み(Weakness)、機会(Opportunity)、脅威(Threat)について分析し、全体的な評価を行う手法のこと。強みと弱みは主として地域の内部要因の分析(内部環境分析)、機会と脅威は同様に地域の外部要因の分析(外部環境分析)を行うもの。
- 3.【地域防災力】 住民一人ひとりが自ら行う防災活動、自主防災組織、消防団、水防団その他の地域における多様な主体が行う防災活動並びに地方公共団体、国及びその他の公共機関が行う防災活動の適切な役割分担及び相互の連携協力によって確保される地域における総合的な防災の体制及びその能力のこと。
- 4.【ふじのくにフロンティア推進区域】 防災・減災と地域成長を両立させた魅力ある地域づくりを実現する「ふじのくに」のフロンティアを拓く取組において指定されている島田市の区域のこと。
- 5.【スマート農業・スマート林業(スマート農林業)】 ロボット技術やICTを活用して、省力化・精密化や高品質生産を実現する等を推進している新たな農業や林業のこと。
- 6.【リノベーション】 既存の建物を改修し、用途や機能を変更して性能を向上させたり付加価値を与えたりすること。

(2) 分野別の認識

時代の潮流、市の現状、市民アンケート等の結果や課題の整理・分析結果を踏まえた本市の課題認識について、分野別に整理します。



① 防災



近年の地球温暖化を起因とする気候変動の影響などにより、頻発・激甚化している風水害・土砂災害や南海トラフ巨大地震といった突発的に発生する地震に加え、パンデミック¹、原子力災害などあらゆる危機事態に対応できる体制の構築が求められています。

また、災害に備えて、市民の危機管理意識の向上を図るため、防災に関する情報の効率的・効果的な発信と防災訓練や防災教育などの実施により地域防災力を向上させることが重要です。

一方、あらゆる危機事態に柔軟に対応するため、ソフト・ハード両面での防災・減災の取組、国土強化対策を着実に進めるとともに、防災関係機関や関係自治体と連携し市民の安全確保を着実に進める必要があります。

さらに、地域の課題や困りごとなどを多様な担い手と共有し、解決に向けた具体的な取組を図り災害対応能力を一層高めるとともに、高齢者や障害者などの災害時要配慮者²を支援していく被災者支援の担い手の裾野を広げていくことが重要です。



② 健康・医療・福祉



国の高齢者人口がピークを迎えるとされる令和22（2040）年に向けて、総人口に占める後期高齢者³の割合が増加すると予想され、医療・介護等の需要は更に増大することが見込まれます。医療・介護等の社会保障費の抑制を図るため、全ての年代の市民が自然に健康になれる環境づくりや、健康寿命⁴の更なる延伸に重点を置いた取組とともに、高齢者が暮らしの中での孤立感や不安感を抱くことなく、住み慣れた地域で安心して、個人の意思を尊重して生活できる環境づくりなどを推進することが求められています。

また、これらと並行して島田市立総合医療センターには、急性期医療を担う地域の基幹病院として、安定的な運営と更なる機能向上が求められるとともに、地域の診療所と役割を分担し連携を図り、誰もが安心して医療サービスを受けられる医療提供体制を維持していく必要があります。

さらに、高齢者、障害者、子ども、生活困窮者など支援を必要とする人に係る課題が複雑化、複合化する中で、夢や希望を持ち生き生きと暮らすことができるよう、互いに認め合い地域全体で支え合う地域共生社会の実現が求められています。



③ 地域・生活



今後のまちづくりを進めていくうえで、子育て、防災、防犯や総合的な地域福祉の推進といったあらゆる分野において、市民の主体的な参画や地域コミュニティ、学校、企業、行政など様々な団体との協働が不可欠となります。このため、より一層、自主性・自立性を尊重した活動の促進に加え、それを担う人々と連携・協力を図り、まちづくりを進めていく必要があります。

人口減少・少子高齢化が進む中において、誰もが将来にわたり安全・安心に住み続けることができるまちづくりの実現に向け、引き続き交通安全・防犯・消費生活に対する意識の啓発や年々増加する空き家への対策などに努めていく必要があります。

さらに、住み慣れた場所でこれからも住み続けるためには、地域の実情に応じた誰もが利用しやすい公共交通の確保・充実などの生活環境の整備も重要です。

また、市民の生活様式や価値観が多様化し、在住外国人の比率も増加していく中で、国籍や文化の違いなども含めた多様性を理解し、お互いを尊重し合う機運の醸成を継続していくことが重要です。

用語解説

- 1.【パンデミック】 感染症の世界的大流行のこと。
- 2.【災害時要配慮者】 災害が発生した時に特に配慮や支援が必要となる者のこと。高齢者、障害のある人、乳幼児のほか、外国人、妊産婦、傷病者、内部障害者、難病患者なども、特に支援が必要となる者として対象となる。
- 3.【後期高齢者】 75歳以上の高齢者のこと。
- 4.【健康寿命】 ある健康状態で生活することが期待される平均期間を表す指標のこと。



④ 子育て・教育

全国的に少子化が進む一方で、世帯数が増加し、核家族¹化が進行しています。これを踏まえ、仕事と子育ての両立に困難を抱える世帯がこれまで以上に増加していることから、結婚、妊娠、出産、子育てしやすい環境整備のためにも、島田版ネウボラなど本市で独自に展開している施策も含めて、幅広い子育て支援施策をより一層充実させることが重要です。

様々な事情により困難な課題を抱えた子どもが増加している現代社会においては、妊娠期から青年期まで切れ目のない支援を実現するため、地域全体で子どもを育む環境がより一層求められるようになりました。

次代を担う子どもたちにとって、社会の先行きが不確実で変化が激しい時代を生き抜くために、主体的に学び、自ら問題を発見・解決する力を身に付けることが重要となっています。そのような中、学校教育が果たすべき役割はますます大きくなっており、多様で豊かな経験を得ることができる学びの場や機会の確保を通して、将来にわたって夢や目標に向かって努力し活躍できる子どもを育てることが期待されています。

また、市民の誰もが、学び続け、生き生きと生活できるよう、価値観やライフスタイルが多様化している時代潮流を踏まえ、様々なニーズに応じた生涯学習環境を充実させる必要があります。

加えて、スポーツに親しむことは、心や体の健康増進に密接に関わるため、生涯スポーツの普及・促進を図る必要があります。



⑤ 観光・交流・歴史・文化

大井川流域には蓬萊橋や大井川川越遺跡をはじめとする固有の歴史・文化資源、大井川鐵道や天然温泉といった観光資源、島田大祭や金谷茶まつりなどの特色ある祭事、パラグライダーをはじめ豊かな自然環境を活かした体験など、豊富な地域資源が存在します。しかし、県内の主要都市や観光地と比較すると島田市の認知度・魅力度は決して高いとはいえない状況です。

そのため、シティプロモーションを通じてこれらの地域資源を効果的に発信し、多くの人に旅先をはじめとする様々な選択肢の1つとして「島田市」が認知され、選ばれることが求められます。加えて、歴史・文化資源や伝統を適切に保存・管理し継承していくことはもとより、観光資源として積極的に活用するなど、地域の魅力を最大限に引き出すとともに、市民の自らのまちへの愛着や誇りを高めることも重要です。

そのうえで、高まるインバウンド需要の機を捉え、国内外の観光客を呼び込み周遊につなげることで観光消費を拡大させるとともに、地域内の循環を促し、地域経済の活性化に結び付けることが求められます。

また、豊かな自然や住み心地の良さなど、地域の魅力を発信し、島田市に関心を持つ方や移住者を増やすことで地域の持続的な発展を図ることも重要です。

さらに、市民に加え島田市に関わる全ての人や団体が等しく文化芸術を享受し創造できるよう、きめ細やかに文化芸術に親しむ機会や場をつくり出していくとともに、その力を地域課題の解決に結び付けていくことが必要です。



⑥ 経済・産業

少子高齢化などの構造的な要因による労働力不足、更には海外情勢に影響される原材料費やエネルギー価格の高騰、円安による物価上昇などが、中小企業・小規模事業者が支える地域経済の持続的発展を妨げています。

こうした潮流の中、例えば、デジタル技術の進歩などにより働き方が多様化しました。労働力不足への対策として、U/I/Tーンの推進をはじめとする柔軟な就労環境の整備を進め、働きやすさを充実させていく必要があります。

また、中心市街地では定住人口の減少や商店の廃業などによる空き家・空き店舗の増加が目立ち、かつての活気が見られせん。公共空間の新たな活用や空き家・空き店舗のリノベーションなどによるにぎわいの創出が求められています。

農林業の分野においては、農作物や木材の価格低迷、担い手の不足などにより市内の農家数、林家数は減少しており、荒廃農地²・荒廃森林³が増加しています。

市の基幹作物であるお茶も、生産額では県内2番目に多い自治体となっていますが、国内価格の低迷により生産量及び販売額ともに大幅に減少しています。デジタル技術を活用したスマート農業を推進し、生産効率を高めるとともに、市内外に発信できるような魅力づくりを行うことが重要です。



用語解説

- 【核家族】 「夫婦のみ」、「夫婦と子」、「父と子」、「母と子」のいずれかの世帯のこと。
- 【荒廃農地】 管理もされず放置されている農地のこと。
- 【荒廃森林】 長年、間伐等の管理が行われていない森林のこと。



⑦ 都市基盤



人口減少・少子高齢化の進行、労働力不足・資材価格や人件費の高騰による事業の長期化などが課題となっています。今後も持続可能な暮らしやすいまちを目指すためには、引き続き「縮充」を意識する必要があります。

地域の拠点に市民生活を支える都市機能（医療・福祉・商業など）を誘導し、その周辺に居住を誘導することで人口密度を維持し、市民生活の利便性を確保するとともに、複数の地域拠点間のネットワーク化を図る、「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考えに基づいたまちづくりの推進が必要です。

中心市街地では、にぎわいの創出や地区内の回遊性の確保が課題となっています。居心地がよく歩きたくなる、ウォーカブルなまちづくりを進めていく必要があります。

新東名高速道路や富士山静岡空港といった広域高速交通網の結節点としての強みを活かし、様々な分野の交流を促し経済活動を活性化させるため、新東名高速道路島田金谷インターチェンジ周辺地区や富士山静岡空港周辺地区の活用のほか、国・県による幹線道路の整備に併せた地域間・拠点間のネットワークの強化が必要です。また、様々な分野の交流を促し経済活動を活性化させるため、国道1号バイパス4車線化など、幹線道路の整備促進に関する国や県への積極的な働きかけが必要です。

道路・河川・橋りょう・公園・上下水道などの社会基盤整備を進めるとともに、老朽化が進行している公共施設については、計画的に点検を行い、長寿命化・耐震化を進めていく必要があります。



⑧ 環境・自然



世界的な気候変動問題や生物多様性²の損失及び汚染による影響が懸念されるなか、2050年カーボンニュートラル宣言に基づくグリーン社会³の実現や、循環経済（サーキュラーエコノミー）⁴への移行促進、生物多様性の回復（ネイチャーポジティブ）⁵などこれまで以上に環境配慮の重要性が高まりつつあります。

こうした社会情勢のもと、本市においても、ゼロカーボンシティの実現に向けて、再生可能エネルギーの利活用やごみの減量などの官民連携での取組により、環境負荷を低減させ、「自然資本」を維持・回復・充実させていくことが重要です。

また、本市は、市域の6割以上が山林・田・畑などの自然的土地利用となっています。森林や農地が有している、水源かん養⁶や地球温暖化防止、生物多様性の保全などの公益的⁷・多面的機能⁸は、近年、その重要性が高まっています。しかし、農林業を取り巻く環境は依然として厳しく、高齢化や担い手不足などにより、荒廃森林や荒廃農地の増加が懸念されています。このような状況の中、豊かな自然が将来に受け継がれていくよう、様々な分野から緑を守る活動に取り組み、農林地を適切に保全管理することにより、公益的・多面的機能の維持・回復を図っていくことが必要となります。

加えて、市民生活や経済活動と密接な関係にある大井川をはじめとする水資源や水環境は、将来にわたって保全していくことが重要です。



⑨ 行財政



国・地方の財政状況は総じて厳しい状態が続いており、提供できるサービスの総量には限りがあります。第2次総合計画で打ち出した「縮充」の考えのもと、時代潮流やニーズを踏まえて真に必要なサービスを見極め、行政経営の効率化を図る必要があります。

普及が進むスマートフォンやマイナンバーカードなどを積極的に活用する一方、情報通信技術の恩恵を受けられる人と受けられない人の格差が生じることなく、地域の誰一人も取り残さないサービスの提供が必要です。

地域の活性化に向けては、生活圏や経済圏を一にする地方公共団体の連携により、一定の人口を確保し、活力ある社会経済を維持する目的で設置した「しずおか中部連携中枢都市圏⁹」などの広域的な連携の取組を深化させていく必要があります。

また、高度経済成長期以降に整備された公共施設の老朽化が進行する中、人口減少・少子高齢化や厳しい財政状況を踏まえて、品質、保有量、管理費の適正化を計画的に進め、ムリ・ムラ・ムダのない公共施設マネジメント¹⁰の推進を図る必要があります。

用語解説

- 【ウォーカブルなまちづくり】 居心地がよく歩きたくなるまちなかを創出すること。街路空間を車中心から“人中心”の空間へと再構築し、人々が集い憩い多様な活動を繰り広げられる空間への転換を図る。
- 【生物多様性】 地域内に多くの生物種や遺伝子型が存在すること。多様な生物種の存在は、多様な生態系のもとに成り立ち、多様な生態系の下では、多様な自然の恵みを人間が利用することができる。
- 【グリーン社会】 環境への対策をすることで経済も成長するという好循環を生み出せる社会のこと。
- 【循環経済（サーキュラーエコノミー）】 生産段階から再利用などを視野に入れて設計し、新しい資源の使用や消費をできるだけ抑えるなど、あらゆる段階で資源の効率的・循環的な利用を図りつつ、サービスや製品に最大限の付加価値をつけていくことで、持続可能な社会をつくるとともに経済的な成長も目指す経済システムのこと。
- 【ネイチャーポジティブ】 自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させること。
- 【水源かん養】 森林の土壌が、降水を貯留し、河川へ流れ込む水の量を平準化して洪水を緩和するとともに、川の流量を安定させること。また、雨水が森林土壌を通過することにより、水質が浄化されること。
- 【公益的機能】 森林の持つ、「水源かん養機能」、「山地災害防止機能／土壌保全機能」、「快適環境形成機能」、「保健・レクリエーション機能」、「文化機能」、「生物多様性保全機能」のこと。
- 【多面的機能】 国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承等、農村で農業生産活動が行われることにより生ずる、食料その他の農産物の供給の機能以外の多面にわたる機能のこと。
- 【しずおか中部連携中枢都市圏】 国（総務省）の連携中枢都市圏構想に基づき、連携中枢都市宣言を行った静岡市を中心に、島田市、焼津市、藤枝市、牧之原市、吉田町、川根本町が連携市町となって形成した都市圏で、圏域における地方創生を目指し、多極的な広域連携を推進するもの。
- 【公共施設マネジメント】 持続可能な行政サービスを提供する自治体経営の視点から、公共施設を総合的かつ計画的に管理及び活用する取組のこと。